

呼吸器内科

診 療

当科の特徴は肺がんや悪性胸膜中皮腫を中心とした胸部悪性腫瘍の診断と内科的治療（主に化学療法）を中心に行っていることである。

平成20年度の肺がん入院患者数は821人で、前年度とほぼ同等であった。肺がんや悪性胸膜中皮腫の化学療法を行う際は、最新のエビデンスに基づいた治療法を提供するように努めている。治療前に患者さんに病気の状態や治療により得られる効果や副作用を十分に説明し、患者さんの希望に沿った治療法を選択するようにしている。また呼吸器外科、放射線科、緩和ケア科と連携して、個々の患者さんに最善の治療を提供できるように努力している。

当科はすぐれたがん治療法を開発するために積極的に多施設共同の臨床試験に取り組んでいる。現在、厚生労働省肺がん研究班(JCOG)、西日本がん研究機構(WJOG)、中日本呼吸器臨床研究機構(CJLSG)などの臨床研究グループに積極的に参加して、肺がんや悪性胸膜中皮腫の標準的治療法の確立を目指し全国のがん治療施設と協力している。

気管支鏡検査は肺がんや肺感染症、良性肺疾患の診断に有用な検査である。平成20年度の気管支鏡検査数は111件と前年と比べてやや減少したが、今後は極細気管支鏡や気管支超音波内視鏡を用いた気管支鏡検査を積極的に行っていくたい。

また当院は結核病床を有する病院のため、周辺の医療機関から結核患者が紹介されてくる。平成20年度の結核患者入院数は136人で前年度よりやや減少した。当科では看護部と協力して確実に抗結核薬を服用してもらうためにDOTSを実施している。

抱 負

三河地区のがん専門病院として、エビデンスに基づいた最新の肺がんや悪性胸膜中皮腫の治療を患者さんに提供していきたいと考えています。

